

まち・ひと・しごと創生総合戦略における女性の活躍の場の拡大に係る取組の進捗状況確認資料

資料6

◆数値目標

- 合計特殊出生率  
出発点(H30年):1.48 ⇒ 現状(R元年):1.47 ⇒ R3年(度)到達目標:●● ⇒ R6年(度)目標:1.70
- 高知県が安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」ができるような社会になっていると考える人の割合  
出発点(R元年度):28.1% ⇒ 現状(R2年度18～39歳):29.2% ⇒ R3年(度)到達目標:●● ⇒ R6年(度)目標:50%
- 理想的な子どもの数、現実的に持ちたい子どもの数  
出発点(R元年度):理想2.38人 現実2.05人 ⇒ 現状(R2年度18～39歳):理想2.25人 現実1.92人 ⇒ R3年(度)到達目標:●● ⇒ R6年(度)目標:理想と現実の数を上昇、理想と現実数の差を縮小
- 平均初婚年齢(夫、妻)  
出発点(H30年):夫30.8歳 妻29.4歳 ⇒ 現状(R元年):夫30.9歳 妻:29.5歳 ⇒ R3年(度)到達目標:●● ⇒ R6年(度)目標:平均初婚年齢(夫、妻)の低下

- <項目>
- ① ライフステージの各段階に応じた少子化対策の推進
  - ② 官民協働による少子化対策を県民運動として展開
  - ③ 女性の活躍の場の拡大

◆目標の達成に向けた進捗状況等

項目	【P (Plan)】				【D (Do)】	【C (Check)】	【A (Action)】			
	KPI	出発点	R3年度到達目標	5年後(R6)目標値	当初計画	これまでの取り組み状況	到達目標のモニタリング方法	現時点の進捗状況		見直しの方向性
								R3年度到達目標に対する現状	現状分析	
③ 男女共同参画関連講座への男性参加者数	—	2,000人(年間)	10,000人(R2～R6年度累計)	1. 家庭における男女共同参画の推進 ○男女共同参画センター「ソーレ」における男性対象講座や講演会の開催、情報誌等の発行による通年の啓発 ○男女共同参画関連講座、講演会への男性参加者数:149人(出前講座含む) ・情報誌、メルマガ、チラシ等による啓発 ・ソーレ・スコープ96号4月、97号7月 ・男女共同参画推進月間講演会の実施(6月19日)、参加者数 会場:125人(うち男性33人)、オンライン:235人	1. 家庭における男女共同参画の推進 ○男女共同参画センター「ソーレ」における男性対象講座や講演会の開催、情報誌等の発行による通年の啓発 ○男女共同参画関連講座、講演会への男性参加者数:149人(出前講座含む) ・情報誌、メルマガ、チラシ等による啓発 ・ソーレ・スコープ96号4月、97号7月 ・男女共同参画推進月間講演会の実施(6月19日)、参加者数 会場:125人(うち男性33人)、オンライン:235人	ソーレからの事業実績報告による確認(4半期毎)	182人(R3.4月～6月) (前年同期:0人)	①コロナウイルス感染症の影響により、企業や学校からの出前講座の依頼が激減している。ZOOMを活用した講座の提案もしているが、伸び悩んでいる。 ②Zoomでの参加では、性別が判別できないもの(カメラ機能のOFF)や大人数(200人以上が参加するもの)の場合、性別のカウントができず、有効な数値が得られない。	①根気強く企業や学校への働きかけを行う。 ②数値目標の設定のあり方(性の多様性のこともある)	
③ ファミリー・サポート・センター事業の提供会員数(両方会員含む)【再掲】	684人(H30年度末)	840人	1,000人	①ファミリー・サポート・センターの設置・運営への支援 ・ファミリー・サポート・センター運営費補助金による支援 ・ファミサポ開設に向けた市町村との協議(4月～) ②会員の増に向けたセンターのPRと研修の実施 ・子育て支援員研修(ファミリー・サポート・センターコース)の開催(7月) ・子育てイベントでのPR、啓発リーフレットの作成・配布、県広報媒体による広報(通年)	①ファミリー・サポート・センターの設置・運営への支援 【設置状況】12市町(R3.4.1時点) ・新規開設開設(土佐清水市9月予定) ②会員の増に向けたセンターのPRと研修の実施 ・子育て支援員研修の開催(7/31、12名受講) ・ラジオによる広報(7/6) ・ファミリー・サポート・センター事業を支援するため補助金メニューを追加	国庫交付金(補助事業)への実績報告書より集計	858人(R3.3.31時点)  参考値 797人(R2.3.31時点) 684人(H31.3.31時点)	①令和元年度から援助会員に対して、会員登録後5年以内に救命救急及び事故防止に関するフォローアップ講習の実施が必要となり、今後一定数の会員が退会する可能性がある。 ②県内全域へのサービスの普及ができていない。	①当該フォローアップ講習会の回数増加に向けた財政支援や、新規会員の確保のための講習会開催などの取り組みについての検討を行う。 ②小規模市町村での設置促進に向けた小規模なセンターへの支援制度の拡充に向けた国への働きかけを行う。	
③ 高知家の女性しごと応援室における就職者数【再掲】	668人(H26～30年度累計)	200人(年間)	1,000人(R2～6年度累計)	1. 高知家の女性しごと応援室によるきめ細かな就労支援や、働きやすい職場づくりと就労後の定着に向けた企業へのアドバイスの実施 ・「高知家の女性しごと応援室」によるきめ細かな就労支援 ・働きやすい職場づくりと就労後の定着に向けた企業へのアドバイスの実施	1. 高知家の女性しごと応援室によるきめ細かな就労支援や、働きやすい職場づくりと就労後の定着に向けた企業へのアドバイスの実施 ・地域子育て支援センター等への訪問:82回 ・女性の就労支援を目的としたセミナー(10月・1月開催予定) ・ラジオによる広報(7/20) ・東・西・中部地域への出張相談:6回、相談件数:16件 ・応援室に蓄積した女性の就労ニーズを活かした企業アドバイス(45件/37事業所)、出張セミナー(3件/2事業所)の実施 ・働きやすい企業の開拓(企業訪問314件、登録事業所13事業所)	高知家の女性しごと応援室からの事業実績報告による確認(毎月)	就職者数:42人(R3.4月～7月) (前年同期:50人)	就職者数は、前年同期と比較し、84%に留まっている。 【要因・課題】 ・コロナ禍による、新規登録者数の減少。(前年同期と比較し、約2/3程度) ・知名度の低さ(「知っている」38%:すこやか2019におけるアンケートより) ・相談者ニーズに合った求人の開拓や、女性が働きやすい職場が少ない。	・高知家の女性しごと応援室の認知度向上のため、ハローワーク高知での出張相談を開催。 ・就職者からの相談傾向の分析を行い、企業訪問・アドバイスへ活用。	